

「楽しい手作り遊び」作品展開催報告

河野光子・稲貝祥子・堀尾昇平・花岡康次郎

Report on the items displayed at the “Handcrafted Toys”

by

Mitsuko Kohno, Shyoko Inakazu, Shyohei Horio, Kojiro Hanaoka

キーワード：手作り制作、おもちゃ、遊び（レクリエーション）、健康増進、成長発達、伝承遊び、壁面制作、ワークショップ

1. はじめに

子どもや高齢者にとって、手作り制作や遊び（レクリエーション）は、五感を楽しませるだけでなく、自己表現を行う場である。両者が果たす役割は、手作りおもちゃや手工芸品においても同様であり、モノに対する愛着心を育み、子どもの成長発達や社会性を促進し、大人にも健康増進をもたらす生活に潤いを与える等、重要な役割を担っている。

今年度、本学園における社会的活動の一環として地域住民に教育活動の一端を紹介し、交流を深めることを目的として「楽しい手作り遊び」作品展を開催した。「作品展」と題したが、手作りおもちゃや手工芸品等の展示と同時に連日、手作りおもちゃで遊ぶ場を提供し、ワークショップを開催した。目で作品をみるだけでなく、おもちゃで遊んだり実際に制作したりする五感の体験を通じて、来場者に展示品や手作り制作の良さを実感してもらうことが大切だと判断したためである。

2. 「楽しい手作り遊び」作品展 開催報告

2・1 「楽しい手作り遊び」作品展 開催日程等

1. 開催期間：平成21年7月17日（金）～7月20日（祝） 各日10時～19時30分
2. 会場：シーモール下関専門店街 2階ピアモール（下関市竹崎町4-4-8）
3. 後援：下関市教育委員会
4. 新聞等主要広報物

子どもと高齢者に「楽しい手作り遊び」作品展 開催案内（①～④）、開催報道（⑤）

- ①伝言板, 下関市の広報紙『かがやき』No.106, 下関市広報公聴課, 2009年7月1日
- ②おでかけ情報, 下関生活情報紙リフレッシュ395号, 週刊リフレッシュ, 2009年7月10日
- ③下関短大、あすから「楽しい手作り遊び」作品展, 山口新聞, 2009年7月16日朝刊
- ④講演・講座・催し, サンデーしものせき736号, サンデー新聞社, 2009年7月18日
- ⑤(下関版) 楽しい手作り遊び作品ずらり, 山口新聞, 2009年7月18日朝刊

5. 案内状発送

下関市内老人福祉施設等 11 箇所、近隣小学校 4 校 (合計 15 箇所)

2・2 展示報告

2・2・1 下関短期大学付属第一幼稚園作品「海の仲間たち」

年長のさくら組を中心に、全園児 (94 名) が制作に参加した。海水面となる白い模造紙の上に水色の絵具を付けた園児の手形を押して波の模様とし、紙の上に魚やヒトデ型の切り紙を貼り海を表現した。テーブルの中心には紙を貼った鯨を中心に置き、周囲にリサイクル品の工作 (タコ・イカ・舟 (トイレットペーパーの芯に折紙貼付)、カニ・ペンギン (プラスチック容器に色塗・切紙貼付))、紙粘土細工 (ヒトデ・貝) といった海の生物等を置き海の風景を表現した (写真 1. 参照)。



写真 1. 下関短期大学付属第一幼稚園作品「海の仲間たち」展示状況

2・2・2 「0・1・2 歳児の発達を促す手作りおもちゃ」(稲員祥子担当)

乳児にとって「遊び」は「感覚器官」「運動器官」「社会性」の発達を促進するといわれている。「乳児保育」の授業では毎年、保育学科 1 年生に「0・1・2 歳児の発達を促す手作りおもちゃ」の制作を課題としている。保育者として、乳児の発達段階を踏まえ、実際におもちゃを製作することで発達を促すおもちゃに対して考察を深めてもらうためである。

今回、平成 20 年度入学者（現 2 年生）が 1 年次に課題として提出した作品 1 人 1 ～ 2 作品、合計約 50 作品を展示した（写真 2、写真 3、参照）。

展示日には、保育学科学生や担当教員が立ち会って、年少の来場者におもちゃで遊んでもらうコーナーを作った。また、希望者には「手作りおもちゃの作り方」（「ふくわらいぶたちゃん」「保博農園秋の大収穫祭 2008」「ブロックキューブ」「いちごのショートケーキ」「出てくるよ！BOX」）以上 5 種類の制作方法と、担当教員が作成した資料〈「乳児」にとっての「遊び」の効果〉を持ち帰ることができるようにした。

展示会場では、乳幼児だけでなく、小学生も手作りおもちゃで遊ぶ姿がみられ、年齢に応じた遊び方（例：「ふくわらいゲーム」乳幼児期には目をあけたまま行い、児童になると眼をつぶって楽しむなど子ども自身で工夫して遊ぶ）をみることができた。また、親子で楽しむ姿や、「高齢者の介護にも活かそうだ」という感想もあった。本展示の詳細については、本誌掲載「乳児保育」における 3 歳未満児の発達を促す手作りおもちゃ—学生による「手作りおもちゃ」作品展示報告—をご参照頂きたい。



写真 2. 「0・1・2 歳児の発達を促す手作りおもちゃ」来場者への説明風景



写真 3. 「0・1・2 歳児の発達を促す手作りおもちゃ」展示状況

2・2・3 高齢者のための「型染め・工作物」(河野光子担当)

2・2・3・1 展示目的Ⅰ —高齢者のレクリエーション(遊び)の重要性—

加齢によって心身は共に変化し、一般的に体力や身体機能は低下し、記憶力や新しいことを始めるといった意欲も低下する。しかし、長い人生経験で培った知恵や知性・総合的判断力・言語能力(結晶性知能)は、加齢によっても余り変化しないことが明らかになっている。人間の能力は、好奇心を失わず、新しいものに意欲を燃やし、頭脳を使えば活性化し、生涯を通じて発達するといわれている。

人生80年時代、高齢期はもはや「余生」ではなく、子育てや仕事から解放され、自分自身のために生き生きと余暇の生活を楽しむと共に社会に奉仕(ボランティア活動)することができる魅力ある時期である。だが、核家族・少子化に加え、経済不況や病気等で不安なひとり暮らしや引き籠り生活(孤独・無力感・退屈を伴う生活)をしている高齢者は、増加の一途をたどっている。

高齢者のQOL(クオリティ・オブ・ライフ、人生の質)を高め、健康増進を行うため、生きがい対策として社会との交流を図る高齢者のレクリエーション(遊び)の理解と支援は重要である。

2・2・3・2 展示目的Ⅱ —レクリエーション(遊び)の効果—

以下に、レクリエーション(遊び)の主要効果を4つ列記する。

1. 人との交流による楽しい人間関係(仲間作り)が引き籠りを防ぐ。
2. 趣味や特技を生かした自発的活動(主体的に「行う」態度)は、気持ちを前向きにし、生活が明るくなる。
3. 創作的活動(歌う、描く、作る等)は、自己表現力や創造性を高め、達成感・満足感・充実感といった喜びを味わうことができる。同時に、他者からの賞賛とあいまって自信を高め、次の課題への奮起を促す意欲も高める。
4. 創作活動によって得られた自信と意欲は、気持ちにゆとりを生み、心の窓を大きく社会へ開き、他人が喜び、社会に役立つ奉仕を行いたいという最高次の幸福への道を自分自身で拓く可能性を高める。1991年12月16日、国連総会は「高齢者のための国連原則」の決議を採択し、政府は「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」という5つの原則を自国プログラムに組み入れることが奨励された。「参加」の中には「自己の趣味と能力に合致したボランティアとして共同体へ奉仕する機会を求めることができるべきである」という一文が含まれている。

高齢者を「弱者・お世話や介護の対象者」ととらえず、たとえ介護を要する場合でも、「一人の人権者・豊かな文化の担い手の伝承者」として触れ合うことが大切であろう。

2・2・3・3 高齢者対象の手工芸品展示について

今回の作品展示は、平成 11 年度下関女子短期大学生生活科学専攻学生が行った老人福祉施設における手工芸制作をはじめとした作品である。平成 12 年 10 月以降、訪問介護養成講座の受講生（ホームヘルパー 2 級資格取得希望学生）がこの活動を引き継ぎ、担当教員と共に施設の高齢者と制作を行っている。最近の活動としては、平成 21 年 1 月、学生が施設現場に赴いて高齢者の制作補助を行うと同時に、高齢者と触れ合い、コミュニケーションを行った。主なボランティア活動実施施設は、安岡病院リハビリ室・特別養護老人ホームアイユウの苑・老人保健施設アイユウ・老人保健施設サンビュー下関・吉水デイサービスの 5 箇所である。施設では、前もって季節に応じた題材を選んで用意し、今回展示した型染め・工作物の他、染色作品（絞り染め・霧染め・版染め）、ビーズ細工等を作している（表 1. 写真 4. 写真 5. 参照）。

表 1. 高齢者のための「型染め・工作物」展示作品一覧

季節	「型染め」の主な図柄
春	つくしと子ども、お雛様、歌うチューリップ、チューリップの花束、桜、桜と鶏、スマイル、クローバーと犬、鯉幟の風景、母の日のカーネーション
夏	紫陽花と蝸牛、虹と蝸牛、ピワと鳥、ヨットと椰子、海辺の少女、熱帯魚、星空と少女、七夕と少女、百合、トンボ採りの子ども
秋	きのこ、桔梗、菊、テントウムシ、葡萄と巣ごもり鳥、葡萄とリス、撫子、秋桜、兎と十五夜、銀杏と少女、柿、ヤツデと実、猿の芋掘り、ウエディング、花と猫
冬	リースとキャンドル、クリスマスの冬景色、シクラメン、アンズリュウム、金柑、雪山と鼠、猿と松、福寿草、牛、鶴と山、梅と鶯、祝千両、松竹梅と小鳥

種別	「工作物」の作品名（主要材料等）
リサイクル 工作	少女と犬の散歩（パネル、ペットボトル蓋、ビーズ）、お雛様（円形トレー、折紙）、提燈（食品トレー 6 枚、折紙）、夏の壁掛け（四角の食品容器を連結、切り絵貼付）、海の魚（食品トレー、釣糸、切り絵）、収穫野菜と自動車（小容器折紙包装、切り絵）、クリスマスの壁掛け（アイスクリーム蓋を連結、切り絵）、クリスマスの鈴（四角のプラスチック容器、折紙、鈴、きり絵）
壁掛け	千支丑（円形紙皿、紐）、紫陽花と蝸牛（紫陽花の切り紙に切り絵貼）、朝顔、金魚（扇形の厚紙に折紙貼付）



写真 4. リサイクル作品（壁面展示）「少女と犬の散歩」（中央のパネル、ペットボトル蓋を活用）等 机上「型染め作品」（秋・冬）他



写真5. 説明書「高齢者のレクリエーションの重要性」他、机上「型染め作品」(春・夏)展示状況

展示期間中、型染めの手法、リサイクル工作等のアイディア等について参観者に説明した。説明書「高齢者のレクリエーションの重要性」(「2・2・3・1 展示目的」、写真5. 参照)を熱心に読む方、「少女と犬の散歩」(ペットボトル蓋を利用したリサイクル工作)の前を通りかかり、もの珍しそうな眼差しで御覧になる方等、それぞれの作品の工夫等を鑑賞しておられた。また、絵画制作に興味を持つ方が型染めの図案・制作に関心を持ち、今後取り組んでみたい意向を示された(「2・4 アンケート集計報告」参照)。

2・2・4 ポスター展示「下関の伝承遊び」(花岡康次郎担当・高杉志緒補助)

平成20年度後期授業「児童文化」において、上記テーマを中心に担当学生(平成20年度保育学科1年川野都)が主体となって調査研究を行った成果発表として作成した模造紙4枚を展示した。内容は下関市内住民や保育所等に対し「下関の伝承遊び」アンケートを作成・実施・集計した結果を中心に報告したものである。本ポスター展示は2回目で、最初は平成20年12月14日開催「創作発表会」(保育学科主催、於シーモールパレス)において展示したが1日だけであった。そこで、学生・教職員の中にも「もう一度よく読みたい」というリクエストに応えると同時により多くの市民に情報を公開するため、再度の展示を行った(詳細は、本誌掲載(仮)「下関の伝承遊び」参照)。



写真6. ポスター展示「下関の伝承遊び」(合計4枚)展示状況

2・2・5 壁面構成展示「夏の風景」(堀尾昇平担当)

保育学科学生は実習生として、あるいは社会人として現場に出たとき、季節に応じた「壁面構成」を制作する場面に出会うことが多い。幅広い造形表現を習得し、季節感あふれる空間を演出できる保育者が現場では求められている。そこで保育学科2年次教職に関する科目中「保育内容造形表現Ⅱ」において、8つの作業班(1班各5～6名)に分けて約2回、実際に壁面構成の実践指導を行った。「夏」の壁面構成という課題を出し、表現場面の設定や材料の指定は全て学生主体で行った。各々の班が色模造紙に切り紙や、折り紙等を貼り付けて、夏の風景を立体的に表現した。1・2年次で習得した折紙をはじめ、ちぎり絵等の技法の工夫、あるいはセロファンや綿など素材を工夫する班もあった。8作品の主題は以下の通りである(写真7.参照)。海辺の風景(海辺のスイカ割り、夏の海(カニと人魚)、海の生き物(イルカと魚の親子、タコ等)、夜の海「ようせいあらわる」)(以上4作品)、水族館(水族館の風景と見学する動物たち)、花火大会(恋人達の花火大会見物、花火大会と夜店、花火と浴衣の子ども達)(以上3作品)。合計8作品、全て展示したところ、親子連れの鑑賞者の中には、子どもの夏休み課題の参考に写真撮影される方もいた。



写真7. 壁面構成展示「夏の風景(海辺の風景)」展示状況

2・3 ワークショップ開催報告

ワークショップは、各日14時～16時、約2時間ずつの予定で開催した。以下に内容及び参加者数等の概要を報告する。

- (1) 7月17日:動かして遊ぶ工作(指とんぼ・びっくり箱)づくり
(堀尾昇平担当、大人2・子ども5名参加。写真8.参照)

身近なものを使って、「指とんぼ」（爪楊枝に紙の羽根を付けて飛ばせるようにした工作）とびっくり箱（1リットル用飲料紙パックの輪切りを蛇腹状に繋ぎ輪ゴムをかけて飛び跳ねるようにした工作）の2作品をワークショップで取り上げた。作る楽しさと、動かして遊ぶ楽しさ、双方を味わって頂くためである。参加者は、30分程度で双方を作り、自分で作った工作は持ち帰って頂いた。



写真 8. 7月17日ワークショップ開催状況（堀尾昇平担当）

（2）7月18日（14時～17時開催）：折紙（金魚・朝顔）による壁掛けづくり

（河野光子担当、大人7名・子ども15名参加）

参加者の大部分は子どもであり、幼稚園・保育園で折紙を習っているのので、興味を持って楽しく取り組み、台紙に描いてある朝顔の葉や金魚がいる水辺に生える藻の色塗りを行って仕上げた（半数以上が2種類の壁掛けを制作した）。付き添いの親族は、子どもの制作を見守りながら、出来上がった作品を喜んで持ち帰った。

参加者は子どもだけではなく、デイサービス利用者・孫のために制作を行った高齢者、介護関係者及び幼児教育関係者も含まれていた。後者の方々のためには、現場での参考になるよう材料を提供し、制作方法を説明した。

（3）7月19日：夏向けの壁掛けづくり（河野光子担当、大人8名・子ども22名参加）

リサイクル工作の一つ。展示作品「夏の壁掛け」（四角の食品容器を連結、切り絵貼付）を実際に作るワークショップ。切り絵（動物と花の絵柄6種類）の準備は保育学科学生有志が行った。

一般参加者は、各々の好みに応じた絵柄を選び、貼り付け作業を行った。同日のシーモール催事（アンパンマンショー）が盛況だったためか、子連れの参加が多かった。

なお、翌日のワークショップ紹介等を兼ねて「折紙工作（ペンギン他）づくり」（安部健二

こども教育実行委員担当、大人 15 名・子ども 21 名参加) を同時開催した。

(4) 7月20日午前：折紙(金魚・朝顔)による壁掛けづくり (河野光子担当、9名参加)

7月20日午後：こまづくり、折紙(とぶ金魚・紙トンボ・風車、応用編の鶴等)

(安部健二こども教育実行委員担当、大人 47 名・子ども 62 名参加)

午前中は、18日と同内容のワークショップを実施した。午後からは、安部委員と付属第一幼稚園教員全員が希望者に対して折紙等の指導にあたった。安部委員が関係者に広く宣伝したことも功を奏し、親子連れが多く来場して制作を楽しんだ。同時に、用意した手作り作品を通りがかった多くの子ども達に説明しながら手渡した。連休の最終日ということもあり、終始にぎわった。

2・4 アンケート集計報告

展示期間中アンケートを実施した(任意希望者のみ、回答者総数 76 人)。主な設問・集計結果は以下の通りである。

①回答年齢(無回答 3 人 3.9%)

・ 9 歳以下	20 人	26.3%	・ 10～19 歳	21 人	27.6%
・ 20～29 歳	4 人	5.3%	・ 30～39 歳	11 人	14.5%
・ 40～49 歳	4 人	5.3%	・ 50～59 歳	7 人	9.2%
・ 60～69 歳	5 人	6.6%	・ 70 歳以上	3 人	3.9%

②回答者性別

・ 男 性	17 人	22.3%	・ 女 性	59 人	77.6%
-------	------	-------	-------	------	-------

③回答者居住地

・ 下関市内	57 人	75.0%	・ 下関市外(山口県内)	13 人	17.1%
・ 北九州市内	2 人	2.6%	・ 福岡県	2 人	2.6%
・ その他地域	2 人	2.6%			

④回答者認知経路

・ 市報「かがやき」	1 人	1.3%	・ 「リフレッシュ」	1 人	1.3%
・ 学校(園)の紹介	17 人	22.3%	・ 知人・友人の紹介	7 人	9.2%
・ シーモールに来館して(通りかかった)				45 人	59.2%
・ その他	6 人	7.9%	(内 2 名がデーサービスの紹介)		

⑤感想

・ とても良かった	59 人	77.6%	・ 良かった	14 人	18.4%
・ あまり良くなかった	0 人	0.0%	・ 良くなかった	0 人	0.0%
			(無回答・その他)	3 人	3.9%

⑥感想 (自由記述欄)

【6歳～10歳未満】

◆全体の感想

・たのしかった。(展示してある工作が) 上手だった。

◆ワークショップについて

・(17日ワークショップに参加して) できてよかった。

・(ワークショップで作り方を) わかりやすく教えてくれて、作れた。

◆幼稚園作品「海の仲間たち」について

・クジラが上手だった。カニやタコがかわいくできていた。

【10歳代】

◆全体の感想

・面白いところも感心するところもあった。

◆「0・1・2歳児の発達をうながす手作りおもちゃ」について

・子どもの発達が促せるようなものがつくりたい(2名)。

・小さい子向けだからといって、簡単に作ってはいけないと思った。

・手作りおもちゃをみて、夏休みに作るものが決まった。

・ゆっくり作品をみることができ、感心した。

・保育園実習の参考にしたい(短大学生)

・小児の発達について看護学校で学んだのでとてもためになった(看護学校学生3名)。実際に手作りおもちゃを見て学んだことが多い。実際に作ってみたい。

◆型染め・工作物について

・型染めの色が綺麗で、染め模様が素敵だった。

◆壁かざり「夏の風景」について

・個性があり、色々な場面があってよかった。

【20歳代】

◆「0・1・2歳児の発達をうながす手作りおもちゃ」について

・育児中なので、大変参考になった。自宅では是非つくってみたい。

・楽しい作品が揃っていた。

・手作りおもちゃの作り方(用紙)があり、参考になった。

【30歳代】

◆全体の感想

・こんなイベントがあればまた来たい(2名)。

◆(17日)ワークショップに参加して

- ・子どもがとても喜んでいました。
- ◆「0・1・2歳児の発達をうながす手作りおもちゃ」について
 - ・子どもが（さっそく口に入れ）、楽しそうに遊んでいた（3名）。
 - ・どれも上手に作られていて、自分も（子どもに）つくってみたいと思った（3名）。
 - ・安くて楽しいおもちゃは沢山売っているが、どうしたら子どもが喜ぶか考えて手作りするおもちゃには代えがたいと思う。
 - ・手作りのもので（子どもが）あんなに喜ぶとは思わなかった。

【40歳代】

- ◆幼稚園作品「海の仲間たち」について
 - ・子どもたちの手形が楽しい。
- ◆「0・1・2歳児の発達をうながす手作りおもちゃ」について
 - ・（おもちゃを）体験するコーナーがあって良かった（2名）。
 - ・とてもやさしい感じがした。面白い。
 - ・どの作品も丁寧に心を込めて作ってあった。
 - ・身近なものを使って作ってあるのでとても良かった。
- ◆型染め・工作物について
 - ・楽しんで作っている高齢者さんの顔が浮かんでくる。
- ◆「下関の伝承遊び」について
 - ・地味になりがちだが、よく調べてある。丁寧に大きな字で読みやすい。
- ◆壁かざり「夏の風景」について
 - ・今の季節にぴったりで、花火や魚のウロコの表現など感心した。森の動物たちが水族館の窓から魚をみているという発想も面白い。
 - ・中学の子どもたちの夏休みの宿題の参考になった。連れて来た小学4年生（女子）も楽しく遊んだ。

【50歳代】

- ◆全体の感想
 - ・見ているだけで楽しい。
 - ・娘が高校の保育科に入ったばかりだが、みせてやりたかった。
- ◆「0・1・2歳児の発達をうながす手作りおもちゃ」について
 - ・みかんの中味に感動。皮をむいたら果汁がこぼれそう!!
 - ・「さかなのくさり」は、（ボタンによって）何匹でも繋がっていくのが楽しい。
 - ・「アンパンマンの的あて」は、（なかなか）思いつかないアイデア。
 - ・アイデアが素晴らしく、作り方も丁寧に感激した。

- ・色使いもかわいくて、思わず触ってみたいくなる作品ばかりだった。
- ・高齢者にも使ってみたい。

【60 歳代】

◆全体の感想

- ・地区の健康推進員をしているが、地区の七夕祭・文化祭等で手作りのおもちゃを子ども達に配っている。
- ・沢山の手作りおもちゃを考えて、体に優しく安価で喜ばれる作品をこれからも作って欲しい。
- ・今まで、自分も色々な手作りのおもちゃを作ったが、孫にも伝承したい。

【年齢欄無記入者】

◆全体の感想

- ・（4歳の子どもの母親）夏休みで退屈している子ども達にとって楽しい時間になった。
- ・また、こういうイベントを行って欲しい。

◆「0・1・2歳児の発達をうながす手作りおもちゃ」について

- ・（3歳の子どもの母親）凝った作品があり、勉強になった。
- ・子どものおもちゃなので、安全・自然なもの（布・ボタン等）を使っているところが良かった。
- ・（3歳女子・7歳男子の母親）子どもと一緒に楽しませてもらった。
- ・自然素材でカラフルなおもちゃは大人も楽しめる。
- ・「遊ぶ」から「作って遊ぶ」ことまで子どもと一緒にしてみたい。

3. おわりに

短大・幼稚園双方の作品を一同に展示した初めての展示会・ワークショップであったが、「手作り制作」を通じて、子どもから高齢者まで来場者楽しんで頂けたと同時に、来場者に「手作り」の良さを共感して頂けたと考えている。手作りおもちゃは、既製品のものとは異なり、制作者にも遊ぶ側にも目新しい発見や、遊ぶ工夫をもたらすものである喜びを与えることが、今回の展示でも立証された。それは、アンケート回答「あまり良くなかった、良くなかった」が1人もいなかったことから裏付けられよう。同時に自由記述の中に、〈「遊ぶ」から「作って遊ぶ」ことまで子どもと一緒にしてみたい〉という、「手作りおもちゃ」を介して手仕事やコミュニケーションの大切さを再確認して下さった感想もあり、企画者側の意図は概ね来場者に伝わったように思う。

主催側としては、この作品展を通して、地域の方々に対し、家族や仲間との絆（社会性）、

発達促進や健康増進をはかる手作り工芸品の重要性を見直す場を提供できたと考えている。同時に、制作物やおもちゃが、子どもや高齢者に対してどのように鑑賞されるのか、来場者の興味・関心の具体的な反応を観察することができた。

反省点としては、実際に手作りおもちゃをつくった学生達に、来場者がどのように遊んだのか実際に立ち合わせる機会を設ける等、より多くの現場への参加を呼びかける必要性を感じた。また、高齢者向きの展示作品とワークショップの作業場が少し離れていたところがあったため、もう少し分かりやすい展示配置を再考するべきであったことが挙げられる。以上の反省点を踏まえ、今後の作品展開催に活かしたい。

付記

作品展の開催にあたり、展示場所を無償で提供して下さいましたシーモール下関商業開発様、後援頂きました下関市教育委員会、広報して下さいました下関市（市報「かがやき」）、山口新聞、週刊リフレッシュ、サンデー下関の各位様に対し、記して深謝致します。

同時に学内関係者ではありませんが、作品運搬・広報・会場設営等に尽力頂きました桂武人広報室長、湯ノ口文子進路支援課主事、記録写真撮影・アンケート集計等を行った高杉志緒講師、開催日に協力した保育学科学学生に対し、御礼申し上げます。

主要引用・参考文献（河野光子担当 2・2・3 高齢者のための「型染め・工作物」）

- 1) 金田利子, 鶴田敦子他: 高齢期の生活, 家庭総合 高等学校家庭科用, 42-45, 2003, 開隆堂出版
- 2) ホームヘルパー養成研修テキスト作成委員会編: レクリエーション体験学習, ホームヘルパー養成研修テキスト 2005年改訂版 第四巻 実技・実習編, 13-17, 長寿社会開発センター, 2005